

災害に負けない回復力が評価

近畿／地域で活躍する企業①

混廃の選別機でR率向上

近畿エリアでは、処理業界を取り巻く変化の波が押し寄せている。滋賀県の公共関係との処分場も埋立完了が見えてきた。大阪・関西万博の関連工事が土木から始まった。新規事業を中心に紹介する。

湖南リサイクルセンター

施設リニューアル完了

大型破碎機と選別機を導入

KINKANグループラスクズ・コンクリートの湖南リサイクルセンター(滋賀県湖南市、西村忠浩社長)は、混

雑の8種類。中間処理後の処分先も数多く確保したため、処理能力を今までの受け入れ量の制限をの2・8倍に高めた破碎機と処理物をRPF

の燃料原料まで分ける大型選別機を導入、施設をリニューアルし、約4億円の投資で県内最大クラスの施設となり、廃棄物ごとに

新しく設置した破碎機タイタンは、ドイツ製の564・7t/日

の処理能力を持つ。旧機と比べて2・8倍に

大型選別機のバリオセパレータは、御池鐵工所製で、混廃を傾斜角度や振動、風力を使って選別する装置。埋

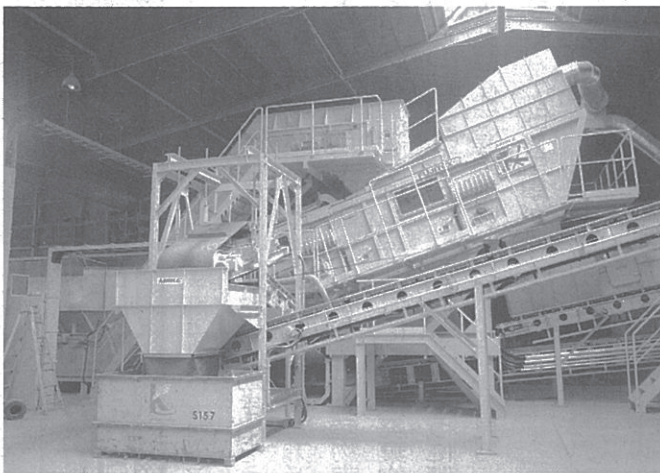
許可品目は、廃プラスチック、木くず、繊維くず、立や焼却しかなかったがれき類、紙くず、ガ



破碎機タイタンは旧機の2.8倍の処理能力

やセメント原燃料として再生できる状態に持って行く。バリオセパレータ設置によって、リサイクル率の向上は別棟にある圧縮施設に運ばれる。圧縮前に破碎処理をすることで、搬入時の条件をクリアできる。リサイクルの

二次処理先が受けられることにもつながる。搬入先の選別機が増えて、安定した受け入れが可能になった。破碎処理をすることで密度の高いプレス品を作成でき、運搬効率



大型選別機のバリオセパレータ